

トピック(テーマ)		北信濃の和算
ねらい		現在の日本の数学レベルは世界的に見てもレベルが高いと知られているが、それは、江戸時代に日本独自で発達した数学”和算”があったからであると言われている。しかし、当時は地域間の結び付きが希薄であり、和算の伝来発達に大きな違いがみられた。北信濃の和算発達の起因・経過などを調べ、和算と当時の人びとの生き方を理解する。
キーワード		和算 和算家 算額 算塚 日本算術 関流 宮城流 最上流 関孝和 宮本正之 野口保徹(湖龍) 竹内度道 寺島宗伴 伊能忠敬 算用記
概要を知るためのツール	1 書名	信濃の和算
	著者名	赤羽千鶴／著
	出版社	信濃教育会出版部
	出版年	1978
	内容紹介	長野県各地における和算家の家に伝えられている遺品や神社仏閣に現存している算額などを手がかりにしながら、実地調査を重ねて記された書。和算の概要についても触れながら、東・南・中・北信の地域区分に従って、各地の和算家について明らかにしている。
	2 書名	北信州木島平の和算風景
	著者名	樋口和雄／著
	出版社	しなのき書房
出版年	2012.5.8	
内容紹介	木島平村と和算の関係を、村に残る算学を紹介しながら、先人がどのように和算に引きつけられのめり込んでいったか、和算を学んだ人々の生き方を究明している。	
資料リスト	1 書名	豊野町の歴史 豊野町誌2
	著者名	豊野町誌刊行委員会
	出版社	信毎書籍
	出版年	2000.3.31
	内容紹介	信州に和算を広めるきっかけとなった、宮城流算学を学んだ更級郡御幣川村宮本正之を始まりとする、豊野町地域の和算の系譜を解明している。なお、19世紀に入って活躍した竹ノ内度道は、高田藩の依頼を受けて揚水機を製作した。
	2 書名	和算史年表
	著者名	佐藤健一・大竹茂雄・小寺裕・牧野正博／著
	出版社	東洋書店
	出版年	2002.6.1
	内容紹介	江戸時代に日本独自で発達した数学”和算”は、現在の日本の数学レベルをあげた。その和算の発達を世界の数学史上の主な動きと関係つけながら年表にまとめたもの。和算の資料も実際に現存する書物などから数多く取り上げている。
	3 書名	和算
著者名	佐藤健一／著	
出版社	文溪堂	
出版年	2006.3	
内容紹介	日常生活に役立ち、和算の普及、発展にも貢献した江戸時代初期に著わされた『塵劫記』から主に材料を選び、その解き方を児童向けに具体的に説明したもの。	

雑誌	1	論題名	山本助蔵の和算書
		著者名	北原 勲／著
		雑誌名	高井
		出版年	2004.8.1
		巻号頁数	第148号
インターネット 情報	1	サイト名	国会図書館サーチ
		URL	<a href="https://iss.ndl.go.jp/">https://iss.ndl.go.jp/</a>
		概要	「和算 信濃」などのキーワードで関連図書、記事論文を探すことができる
	2	サイト名	長野県市町村史誌目次情報ネットワーク
		URL	<a href="http://misuzu-mokuji.net/">http://misuzu-mokuji.net/</a>
		概要	市町村史誌の目次に和算についての項目があるか検索することができる
新聞	1	記事	社会と暮らし(10)江戸後期 科学的測量
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊 13ページ
		年月日	2003.8.27